7月園だより

２０１８年度　年主題〈イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で〉

1･2歳児７月主題「ふれる」

月のねがい

◎保育者の祈る姿にふれ、イエスさまを身近に感じる
◎水や砂、土にふれて遊ぶ
◎保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ

3･4･5歳児７月主題　「交わる」

月のねがい

◎生活の中で賛美したり、祈ったりする気持ちが生まれ、その気持ちを表す
◎好きな遊びを深めながら、生きものや、友だちとの交わりが楽しくなる
◎自分の思いや意見を伝えようとする
◎体を洗ったり、着替えたり、木陰で休んだりすることを快く感じる

今月の聖句

ひかりのこどもとしてあゆみなさい。

エペソ5：8

人間の出発点は創造神によって創られたことです。創世記には「神は土から人を像（かたち）ある者として造り、鼻から神の息（霊魂）を吹き込まれて、生きるものとなった。」（創世記２章７節）と記されています。したがって、人間の肉体は、いつかはまたもとの土に帰りますが、霊魂は永遠に不滅です。

冒頭の言葉、「光の子」の部分を「神の子」と言い換えるなら「神の子らしく生きなさい」ということになりますが、神の子らしくより、光の子の方が広がりと深さがあるような気がします。人間が神の子（光の子）として、神が望まれる世をつくっていけば、世界は平和となり、争いや憎しみもなくなり、まことに理想的な社会が生まれます。

「三つ子の魂百まで」。幼い時から、神の子として自分を尊び、他人を敬うことを身につけておけば、長じては、立派な社会人として世の中に必要な人材となります。ここに幼児教育の真骨頂があるのです。

牧師･前理事長　池田公栄

７月の行事予定

3 日（火）	海遊び（3才以上）・弁当日
6 日（金）	七夕訪問
10 日（火）	市プール遊び（３才以上）
11 日（水）	海遊び（２才児）
17 日（火）	誕生会（２才以上児）
18 日（水）	弁当日
19 日（木）	終園日（１号午前保育）
21･22 日	お泊り保育（年長児）
27 日（金）	熊毛地区公開保育

８月の行事予定

1 日（水）	夏季保育（１号午前保育）
3 日（金）	夕涼み会
13 ～ 15 日	弁当日（２・３号のみ）
21 日（火）	夏季保育（１号午前保育）

はじける笑顔と水しぶき

今年は、関東の方が一足先に梅雨明けとなりましたが、雨量が少なく貯水率も低いようです。農作物の生育のためにも、水不足が深刻にならないよう祈っています。さあ、いよいよ夏本番を迎えますね。いつものように猛暑が続くと老体には応えますが、子どもたちの笑顔が一番はじける季節なので、鞭を打ちつつ楽しみたいと思います。

姉妹園で先週末まで、東京から男性の教育実習生を受け入れておりました。他県の養成校に通う地元の実習生は良く受けますが、祖父母が本市の出身者とはいえ、東京からは初めてのことで少々驚きました。全く住んだこともない南の島での実習を希望するとは。何が彼をそこに駆り立てたのか･･･大いに興味をそそられ喜んで引き受けました。当然、東京での実習は何度か経験していたようですが、その中で、「この保育のあり方でいいのか？」「でもどこかが違う！」「自分の目指す保育者にはなれない」と彼は思ったそうです。どこか全然違う環境で実習をしてみたいと、依頼先を決めかねていたそうです。都市部と地方では抱える課題には違いがあるでしょうが、同じように教育要領や保育指針を基に教育･保育課程を編成しつつも、大人の事情もあって、実際の保育活動にはいろいろと制限が多いようです。

彼にとって衝撃的だったことは、子どもたちが一切警戒心なしに寄ってくること。子どもたちの欲求が優先されるあそびが展開されていること。保育活動が子どもの興味･関心を中心に進められること･･だそうです。ということは、子どもが真ん中にいないということ？私たちにとっては、日常的で当たり前のことでも、なかなか思うように実践できない世界もあることに気づかされました。そして、お隣の公園でクマゼミやクワガタたちと出会え、すぐに海に泳ぎに行ける環境に改めて感謝したいと思います。自分の仕事や将来を真摯に考えて行動している学生さんを久し振りに見ることでした。彼が思い描いている保育の世界は必ずあるので、絶対頑張って探し当てて欲しいと願っています。

海や川、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。時にはロケットが飛んでいく姿を見上げる。人生の基盤となるこの時期を、家族や友だちと種子島で過ごす子どもたち･･･なんて素晴らしい時間を与えられたことか。どうぞ宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。子どもたちのために今できることを、皆さんが共に整えてくださることに心から感謝いたします。この夏も子どもたちと共に暑さを乗り切っていきましょう。

学園長

見守るとき　育つとき

泣いて感情を表す0才児。態度や仕草で感情を表す1才児。どちらもまだ、言葉では上手く伝えられませんが、自分の感情はしっかり持って伝えようとする子どもたちです。

ある日、めぐみ組の部屋でおもちゃの取り合いが始まりました。いつもは、”あのおもちゃで遊びたい！”と思っても、他の子が遊んでいたりすると、躊躇をして自分の気持ちを出さないT君が、なぜかこの日は自分から動いて、S君のおもちゃを取りにいったのです。S君も負けてはいません「これボクの～!!」と言わんばかりに、必死に両手で抱え込んだり、「あ～！」と言ってみたり、全身で抵抗していました。しばらくしているとT君が目でSOSを送ってきました。少し離れた所から観ていた私は、求められるがままにT君に寄っていき、「どうしたの？」と声を掛けました。T君は「んっ！んっ！（これで遊びたい！）」と、おもちゃを指さします。私が「これで遊びたいの？」と聞くと、こくんと頭で深くうなずきました。ハッキリとした意思表示でした。「そっか～T君、S君もこれで遊びたいんだって！」と言うと、T君は「んぐ！！（ダメ！）」。そこで私が「ダメなの？じゃあさ、T君がS君に貸してって言ったら？S君貸してくれるかもよ！」と言うと、T君は「（かし）て～！」と言いながら手で頂戴のポーズを組みました。S君はその姿を見て、耳で聞いて、少し間を置いてから･･･持っていたおもちゃをスーッとT君に差し出したのです。私は、「T君貸してって言えたね～！」「S君はどうぞができたね～！」と、2人の頭をよしよししました。

子どもにトラブルはつきもので、その時大人がすぐに仲介に入ってしまうのは簡単ですが、子どもたちなりに自分の気持ちを伝えようとする姿、また、友だちの気持ちに耳を傾けようとする姿を見守ることの大切さを感じた出来事でした。

主任　伊豆元

～ 子どもとのコミュニケーション法～

前回に引き続き、お子さんとの簡単なコミュニケーション法をご紹介したいと思います。

＜子どものしていることや、気持ちを言葉にして話す＞

例えば、ボールを投げるときには「エイッ」、物を持ち上げるときには「ヨイショ」など日常的に使える場面はたくさんあります。

その他遊びの場面ではお子さんの様子を観ながら実況中継のように行動と気持ちを言葉にします。例えばお絵描きをしているとき「赤色鉛筆をもって･･･チューリップをかきます。かわいく描けた！次は･･･何色にしようか迷って･･･黄色にしました。そして･･･ひまわりを描きました。上手にできたな」など、親が注目してくれている幸福感の中で、その動作を楽しみ、物事への意欲を育むことができます。

また転んだときには「痛かったね」と、気持ちを受け止めて代弁しましょう。自分が持った嫌な感情も周りの人から認めて受け止めてもらえた経験の積み重ねは、他者との信頼関係を築く力になります。私たち大人も同じですね。そして助けてもらった経験は、他者を助ける力にもなっていきます。園でも、例えばおもらしをしてしまったお友だちがいたら、先生よりも素早くお着替えを取りに行って渡してくれるお子さんがいます。そういう配慮のできるお子さんを背後で支えてくださってるいる方々にも感謝する思いです。

このように、子どもの理解に合わせたこの方法は、思いやりの心を育むとともに、言葉の意味や使い方のモデルになります。

＜大人のしていることや、気持ちをことばにする＞

例えば「お父さん、絵本を読もうかな」とか、ままごとをしながら「にんじん、切るよ」など言葉にすることで子どもの注意をひき、遊びの中で自然に表現の手本を示すことができます。「〇〇ちゃんもやりたいね」「もっと遊びたかったね」など、＜子どもの気持ちを言葉にする＞と合わせて使うことで”あなたとわたし”の理解や、共感姓の発達を促す効果も期待できます。

子どもの反応をキャッチしながら、子どもにストレスがかからないコミュニケーションをしていくことで、子どもは安心して他者と関わり、自己肯定感を高めて、集団の中でも長所を発揮できるよう成長していきます。

木口屋（心理士）